



令和元年7月31日

## 「インフラわくわくツアー」第4弾！

～インフラを巡る地域密着型ツアーを催行する旅行会社を募集します～

北海道開発局では、より多くの方にインフラに親しんでいただくために、昨年度実施した「インフラ歴史ツアー」の続編として、ツアーのテーマに「歴史」はもとより、地域の「産業」、「文化」、「食」といった様々な要素を取り入れた「インフラわくわくツアー」を実施します。

この度、第4弾として「函館編」を催行する旅行会社を募集します。

「インフラわくわくツアー」は、北海道開発局の施設に加え、地域の関係機関の施設もメニューに取り入れることで、ストーリー性を持った見学メニューや解説を行い、インフラの整備と地域発展の関係を実感できる内容としています。

### 記

#### 1 ツアーテーマ

「函館編」 ”五感で感じよう！「函館湾岸コンクリート物語」”

開港後の函館にもたらされた、西洋の最新技術の一つであるまちづくりやインフラ整備に欠かせないコンクリート技術について、現地を巡り、函館湾岸地域のコンクリート文化の歴史を体感する。

2 募集期間 令和元年8月1日（木）～令和元年8月15日（木）

3 申込み方法等 応募要領、申込み様式、申込み先等については、北海道開発局ホームページをご参照ください。

URL : <https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/ki/renkei/splaat000001rb5.html>

4 ツアー概要等 詳細は別紙をご参照ください。

【問合せ先】国土交通省 北海道開発局 電話（代表）011-709-2311

開発監理部 開発連携推進課 開発企画官 宮崎 貴雄（内線5433）

開発監理部 開発連携推進課 開発専門官 長南 哉（内線5441）

北海道開発局ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/>



# ○インフラわくわくツアー（函館編） “五感で感じよう！「函館湾岸コンクリート物語」”

【概要】

## ツアーテーマ 『函館湾岸地域のコンクリート文化の歴史をたどる』

- ◇函館港は、1859年（安政6年）に横浜、長崎と同時に国際貿易港として開港しました。その後、西洋の最新技術が入ってくるようになり、その中の一つにまちづくりやインフラ整備に欠かせない「コンクリート」の技術がありました。
- ◇いち早くコンクリート技術を取り入れ、港湾整備や上下水道などのインフラ整備に活用してきました。また、完成から100年以上を経過した現在でもそのまま使用されている建造物等が数多く残っています。
- ◇本ツアーでは、現地を巡り函館湾岸地域のコンクリート文化の歴史を体感します。

## 催行予定

令和元年10月1日～26日の期間中に2回（全2回）【日・祝日不可】（日程は調整の上決定）

## ツアー定員

各回 20名

## 諸条件等

- ツアーを企画する際は、以下の「メニューリスト」から自由に選択いただけます。ただし、(☆)印のメニューは必須とさせていただきます。この他にもグルメ、観光スポットなど行程に組み入れていただけます。
  - 「1」、「2」では、北海道開発局の職員が解説、ご案内します。
  - 「2」、「3」、「4」、「5」、「6」では、函館湾岸価値創造プロジェクトチームの協力により、解説、ご案内します。
  - 「3」、「4」、「6」では、函館市の協力により、ご案内します。
  - 「5」では、東本願寺函館別院の協力により、ご案内します。
- ※この他の詳細については、催行応募要領をご参照ください。

## メニューリスト

- 1 函館漁港船入澗防波堤(☆)  
防波堤の見学及び解説を行います。 (所要目安20分)
- 2 函館港(☆)  
港湾業務艇「みずなぎ」に乗船し、海上から港の見学及び解説を行います。(所要目安60分)
- 3 笹流ダム  
日本初のバットレスダムの見学及び解説を行います。 (所要目安20分)
- 4 元町配水池  
日本人が設計した最古の配水池などの見学及び解説を行います。 (所要目安20分)
- 5 東本願寺函館別院  
日本最古のコンクリート造り寺院の見学及び解説を行います。 (所要目安20分)
- 6 函館市地域交流まちづくりセンター  
東北以北最古のエレベーターが設置されている建造物の見学及び解説を行います。 (所要目安30分)

# ○見学可能な施設



函館漁港船入潤防波堤



函館港



笹流ダム



国土地理院地図



東本願寺函館別院



元町配水池



函館市地域交流まちづくりセンター